

報道関係者 各位

2021. 12. 22
< 配信枚数1枚 >

失明の恐れのある疾患の治療法開発の促進に期待

薬学部の小池千恵子教授らの研究グループが米国機関から研究資金を調達

立命館大学薬学部の小池千恵子教授らの研究グループは、米国ノースウェスタン大学医学部と共同で、視力を脅かす全ての病気の予防、治療、または根絶を目的とした目の研究を支援する、アメリカの非営利団体 RPB (Research to Prevent Blindness) から、「RPB International Research Collaborators Award」を授与されました。

本件のポイント

- 視覚科学者の研究をサポートする米国機関からの支援
- 国際的な共同研究により、失明の恐れのある疾患の治療法開発に期待がかかる

「RPB International Research Collaborators Award」は、米国内の研究者と米国以外の同僚(研究者)が新たな知識や技術を得るための国際的な協力関係・共同研究を促進するものです。研究者が特定の研究目標を達成するために、お互いの研究室で一定期間働くことができるよう、最大7万5千ドルが提供されます。このような国際的な共同研究は、失明の恐れのある疾患の治療法の開発を促進し、将来にわたって世界中の多くの人々にプラスの影響を与える可能性があります。

小池千恵子教授がセンター長を務める立命館大学総合科学研究機構・システム視覚科学研究センターは、2015年から米国ノースウェスタン大学医学部の Steven H.DeVries 教授を上席研究員に迎え、共同研究を行ってきました。今回の受賞は、共同研究者の DeVries 教授と進めてきた共同研究「網膜シナプスの構造解析」が評価されたことによるものです。今後は、立命館大学生命科学部の川村晃久教授とともに再生医学研究を進めていく予定です。

<研究者のコメント>

伝統ある RPB のグラント(競争的資金)に採択になり、非常に光栄です。これを機に、学生間の国際交流の機会も深めつつ、一層、視覚研究に邁進していく予定です。

<RPB について>

RPB は、1960年の設立以来、米国の37の主要な科学機関に眼科研究資金を提供し、さまざまな疾患指向の研究に従事する数百人の有能な視覚科学者の研究を支援しています。

HP(英語サイト) : <https://www.rpbusa.org/rpb/>

● 本件に関するお問い合わせ先

立命館大学広報課 担当:名和

TEL.075-813-8300 Email. r-koho@st.ritsumei.ac.jp